むくげ通信 306 号 2021. 5. 30

韓国で歌手を蔑視した言葉「タンタラ」について（上）

山根 俊郎

最初に

私たちむくげの会は、毎月第１，３火曜日 PM7:00-8:30 に勉強会を神戸学生青年センターで開いています。メンバーのレポートの時とゲストをお呼びしてお話を聴くゲストディがあります。

今は、コロナのためにセンターに集まれないのでもっぱらＺＯＯＭで行っています。せっかくなので普段お呼びできない東京や韓国にお住まいの研究者の方をゲストにお迎えしています。

去る、５月 18 日（火）は、ソウルにお住いの翻訳家 岡 裕美さん。テーマは、「韓国文学作品の翻訳にたずさわって」でした。

川口祥子さんが韓国に語学留学中に知り合った方で、岡さんが翻訳された『ギター・ブギー・シャッフル』（李眞 著）を川口さんから薦められて私（山根）がむくげ通信 302 号で紹介したことからゲストにお呼びした次第です。岡さんは、他にも日本軍「慰安婦」問題を扱った小説『ひとり』（キム・スム著、三一書房 2018 年）、『僕は李箱から文学を学んだ 』、『失花 韓国文学の源流 短編選』なども翻訳されています。

話は、『ギター・ブギー・シャッフル』の 1960 年代前半に米８軍キャンプ公演のギターリストの主人公キム・ヒョンに対して大学生のいとこが「タンタラ」と侮辱する場面（P173）に及んだ。

岡さんは、「訳者あとがき」（Ｐ251）で「タンタラ」を次のように説明されています。

本書を語る上で欠かせない要素として、芸能人を蔑むニュアンスで使われ、作中で登場人物が自嘲的に語りもする「タンタラ」という言葉がある。朝鮮王朝時代に宴席などで歌舞を披露した人々が最下層の身分とされていたことから、近代以降に旅芸人などの蔑称としてタンタラと呼ばれるようになったといわれている。作中で語られる「一般大衆は芸能人を別世界の人間を見るように神聖視したり、蔑視したりする」風潮はいまも大きく変わっていないが、本作を読めば、かぎりない才能を持つタンタラたちの魅力に引き寄せられる主人公に共感せざるをえないだろう。

そこで今回は「タンタラ」について考察する。

辞典の記述

まず、私が愛用している NAVER の韓日辞典で引いてみました。

딴따라 （タンタラ）：（卑語）芸能人。芸人。

次に、国語辞典では、

딴따라（タンタラ）：演芸人を見下して言う言葉。

「俗語」というニュアンスは、分かった。

楽器の音が語源とする説

私は、「タンタラ」自体には意味がなく単に楽器の音が「タンタラ」と聞こえたと考えていました。

ＰＣで調べたらちょうど「ラッパの音」とする韓国のブログがありました。

タンタラ（딴따라）の意味と語源　どこからきた言葉か？　単語/語源

ポルロクポルロク（폴럭폴럭） 2016. 4. 19. 14:20

演芸人（日本では「芸能人」）たち、特に歌手を少し低めて言う言葉である 「タンタラ」（딴따라）という言葉を聞いたことがありますか?「タンタラ（딴따라）の振る舞いを止めて 勉強をしなさい」こんなふうによく使いますね？

ところで、タンタラの意味が何か？　どこから来た言葉なのか？を考えてみたことがありますか？

今回のポスティングでは、タンタラの意味と由来について調べてみました。

タンタラの意味は、先程申し上げた通り’演芸人’を 見下して呼ぶ言葉で俗語（卑俗語）です。

なぜタンタラ（딴따라）になったのでしょうか？

その語源は、実は、英語からきた言葉です。英語の tantara という単語に見出すことができます。

タンタラ（딴따라）の意味、即ち tantara の意味は「ラッパやトランペットなど楽器の音」を表す擬声語であると言われます。

即ち、楽器を叩いて歌を歌う演芸人、歌手達をからかうように「タンタラ」と表現し始め、今の「タンタラ」という表現で固まったといいます。

タンタラ（딴따라）の意味自体は、悪い言葉ではないのですが、演芸人たちをタンタラと呼ぶことは、良い表現ではないので自制する必要があります。注意しなければならない俗語的な表現ですが、語源を知っていればおもしろいのでポスティングして見ました！

さらに、NAVER の英韓辞典で tantara をひくと

tantara US 米式·UK 英式 [tǽntərə,tæntǽrə,-tɑ́ːrə]

나팔[뿔나팔] 등의 소리, 트럼펫[호른]의 취주

タンタラ：ラッパ（角ラッパ）などの音、トランペット（ホルン）の吹奏

これで決まりだ。と思ったが、どうもすっきりしない。あまりにも言葉が軽すぎる！蔑視感が含まれていない！

若き趙容弼の苦悩

今や歌王と呼ばれる歌手のスーパースター趙容弼（チョ・ヨンピル）も「タンタラ」という言葉に苦しめられました。

日本で出版された「チョー・ヨンピル自伝 趙容弼 釜山港に帰れ」（趙容弼著三修社 1984 年：日本語）P10-P11

ここでぜひ触れておかねばならないことがある。「タンタラ（河原乞食）」という言葉を聞いたり、言ったりしたことがある人もいると思う。俳優に対してよりも、僕たち歌謡界で働く人に向かって、しばしば使われる、この蔑みに満ちた言葉の中に、なんと根深い誤解と偏見がうごめいていることか…。「タンタラ（河原乞食）」という言葉は、1920 年代以降に表れた、役者小屋や劇場、それにサーカス団の門前ではやし立てる音楽などをなりあいとする人たちを指して、生まれた。そして、いつからか、歌謡を指す代名詞となったが、現在に至っても、この呼び名が生きている事実に驚かざるを得ない。

また、「風角屋（チンドン屋）」〔注：プンガクジェンイ（풍각쟁이）が一般的。NAVER の韓日辞典によれば、「人の門前で楽器をならしながら金品を乞う人，門付け，流し」〕という言葉もある。この呼び名も「タンタラ（河原乞食）」とどっこいの、なんとも芸

能人を見下した言い方である。

そんな言い方の問題など、気にしなければいいさ、と思いながらも、僕は心の片隅で、こだわっている。この言葉を耳にすると、暗い気持ちがよぎるのは、どうしようもない。こんな話をするのも、僕個人の思いを、ここでぶつけたいということよりも、僕たち芸能界全体の名誉のためにも、芸能という仕事に対する偏見と誤解を、ぜひ一日も早くなくすことが良いと思うからだ。（中略）

僕は、与えられた条件の中で、ベストを尽くして力いっぱい生きていく人こそ、偉大な人だと信じている。そうであれば、人気があるからといって自慢することもないわけだ。“タンタラ”とか“風角屋”だと言われたからといって、悲しんだり、切なくなることもないのだ。

自伝では、兄から「タンタラになるな」と歌手になることを反対された。と書いている。

僕は 1950 年3月 20 日京畿道華城郡松山里サンジョン里で生まれた。3男4女の6番目だった。

大家族で育ち、サンジョン里は静かで草深い村落であり農業と畜産が盛んだった。僕が中学の時にソウルに移り住んだ。大学進学を控えた高校3年の時に父は法曹界か医者になることを望んだ。

しかし、音楽に出会いギターにのめり込んだ。父から「ギターを止めて勉強しろ」と説教された。兄から英語の辞典を投げ付けられて「この野郎！お前、タンタラ（河原乞食）になるつもりなのか、どうなの

だ！」母と姉は、兄に加勢した。（P29）

（中略）兄は僕の頬を平手打ちした。

「どうして殴るんだ。俺は、俺がやりたいようにやるから、余計なお節介はやめてくれ！」

「この野郎、何だと。タンタラになってどうするってんだ」

「俺は俺のやりたいようにやるさ。お節介はやめてくれと言うんだ」

怒り心頭に達した兄は、床に転がっていたギターを振り上げると力まかせにふり下ろした。バーン、メリメリ…、という音と共にギターはメチャメチャにこわれてしまった。粉ごなになったギターの残がいが、床や縁側に散らばるのを見て、ぼくは、ただ、崩れるようにその場に座りこんでしまった。（P30）

なお、日本で出版された自叙伝は、それ以前に韓国で出された「私の青春,私の恨 趙容弼自叙伝 招魂の歌（나의 青春，나의 恨 조용필自叙伝 초혼의노래）」（趙容弼著 図書出版 宇石 1982 年：韓国語）を翻訳したものです。

韓国のイマを伝えるもっと！コリア

ヤフーで日本語の「タンタラ」を探していたら、「韓国のイマを伝えるもっと！コリア」という韓国情報サイトの「新造語辞典」というコーナーでタンタラ（딴따라）の説明があった。長文です。

タンタラ：딴따라 ： 韓国もっと単語帳 - もっと！ コリア (Motto! KOREA) (mottokorea.com)

タンタラ：딴따라

意味:芸能人を見下して呼ぶ言葉、最近では、あまり使わないがルームサロンなどでギターやサックスを吹く人をタンタラと呼ぶこともある。

解説:朝鮮時代にサダンペ（寺党牌）と呼ばれる集団があった。ギャンブラーや下層民の酒の席で歌舞で興をさかす女性の集団だったが、裏での性売買行為が主な収入源だった。朝鮮後期になって男性のサダンペあるナムサダン（男寺党）が登場したが、社会から隔離されて、自分たちだけの男色社会を成した流浪の芸人集団だった。

彼らは冷遇されてきた。職人や白丁（ペクチョン/と殺を職業とした人）よりも低い扱いを受けた。

近代に登場した楽劇団はサダンペとは本質的に違うが、一般人たちにとっては、あちこちを巡って歌と踊りを売ることが似通って見えた。地方公演を巡りながらその場で団員を募集する方式もサダンペと変わらなかった。

1960 年代、韓国人を泣かして笑わせたコメディアンのク･ボンソもアコーディオンを持って道を歩いているときに、楽劇団員にピックアップされた。医師になることを望んでいた父親は「タンタラのような真似はさせない」と止めにかかったが、楽劇団の代表が訪ねてきて切実にお願いしたため「それなら、3 日間だけしろ」と許可を受けたという逸話が伝えられている。

具鳳書（ク・ボンソ）の話

具鳳書

上記の具鳳書（ク・ボンソ）の履歴です。1926. 11. 5-2016. 8. 27 平壌出生。1926 年父母と当時の「京城」に引っ越す。大同商業高校と日本の東洋音楽専門学校を卒業。1945 年８．15 解放後、知り合いの歌手金貞九（ｷﾑ・ｼﾞｮﾝｸﾞ）を通じてその兄である金龍煥（ｷﾑ・ﾖﾝﾌｧﾝ）が率いる太平洋楽劇団に入り、アコーディオン楽士として活動しました。

1995 年に「具鳳書デビュー50 年ビハインド人生話」ＫＢＳ２「人生の味」というテレビ番組に出演して話をしている。（YOUTUBE にあり）

そこでは、「楽劇団が開城（ケソン）に所在するので高麗人参を貰ってくるからと言って３日間の約束で父から許しを得た」と言っている。

ある日、突然、俳優が逃げたので舞台下の演奏席にいた彼は、呼び出されて飛び込みで代役をアドリブでこなしたのが最初の舞台でした。

その後、1956 年に映画「愛情波涛」に出演して本格的に芸能界にデビューしました。

具鳳書は、1958 年映画「五父子」が大ヒットした。英雄豪傑４兄弟の末っ子役で出演して役名のマンドンイ（막둥이）というニックネームで喜劇俳優として人気者になりました。

1960－70 年代には、映画、ラジオ、TV に多数出演して活躍しました。

１世代コメディアンとして具鳳書は、徐永春（ソ・ヨンチュン 1928 年 ～ 1986 年）、裵三龍（ペ・サムリョン 1926 年～ 2010 年）と共にトロイカでコメディー界を平定しました。

徐永春

裵三龍

「韓国のイマを伝えるもっと！コリア」に戻る。

サダンペから楽劇団に続く時代の芸能人は人間以下の扱いを受けてきたが、それに対する表現がタンタラという言葉のイメージに残っている。タンタラがいつ生じた言葉なのかは定かでないが、楽劇団の活動が本格的に行われた前後と推定される。

タンタラ＝タン＋タラジ

タンタラという言葉の意味もタンとタラジという言葉の合成語とされているが、タンはラッパの音を意味する擬声語であり、タラジは最下位の人生を意味する。闘銭（ママ）（賭博）でもタラジは最も点数の悪い牌だ。

遂に探し求めていた答えを見つけました！

「シムバッタ（심 봤다）」シム（심）＝野生の高麗人参（サンサム・산삼）を見つけた時に叫ぶ声。

なんと、タンタラ（딴따라）の最初のタン（딴）は、ラッパの音であり、後ろのタラ（따라）は、タラジ（따라지）の略字だというのです！！！

タラジ（따라지）とは？

まず、タラジ（따라지）を得意のNAVERの韓日辞典で引いてみました。

따라지：名詞

1．小柄でみすぼらしい人、

2．（博打で）１点、

3．しがない存在

闘牋（トゥジョン・투전）

そこで博打である闘牋（トゥジョン・투전）というカードのゲームを調べてみました。

丁度、2004年の「週刊東亜」正月特集で伝統的な遊びを紹介している記事がありました。その記事の中で闘牋の部分を転記しました。

ちょっとした楽しみ＋'先祖の知恵'を探した昔の遊び10選

2004-01-15 15:09:00

文·キム・キルソ（김길소）/ 韓国伝来娯楽研究所所長·江原日報論説室長

企画/ チョン・ヒョンサン（정현상）記者

出典: http://weekly.donga.com/3/all/11/72892/1

闘牋（トゥジョン・투전）は、朝鮮時代に広く広まった室内の伝統的な遊びです。

娯楽的な遊びというより財貨を掛けて役の点数（クッパル・끗발）を競い賭博性が強く、庶民層の若者たちが楽しみました。

遊ぶ方法も「金を出して金を食う」式です。射幸心を助長するとして、朝鮮後期のある時期に禁止されました。金をかけて勝負する過程で感じられる面白さとスリルが他の遊びと比較できないほど強いものでした。

闘牋に溺れて、廃家亡身や冬の季節に一年の農業収入をたった一日で失ってしまうなど農村を困窮に追いやる害悪を及ぼしました。

闘牋の札（トゥジョンモク・투전목）は窓戸紙（창호지＝障子紙）を幾重にも重ねて分厚く作りました。これを指幅(幅1.5 cm)で長さ18cm 程度に一定に切って一面に動物と人物の顔、詩句などの絵を描きます。そして、１から 10 までの点数（クッス・끗수）を書いた後に油に付けて長期間使えるように手入れして使いました。

遊び方と参加人数によって点数が同じ相方（짝）が 5枚, 6枚, 8枚があり、1セット（한목）が 50枚, 60枚, 80枚になる場合もあり 40枚 25枚だけ使うこともありました。

遊び方
遊ぶ方法もトルリョテギ（돌려대기）、トンドンイ（동동이）、コプサチ（꼽사치）、ソモリ（소몰이）、チョクチョギ（쩍쩍이）、チンブンオ（찐붕어）、チョルパリ（쫄팔이）、ヨックァンデ（엿광대）など多様です。
この中で トルリョテギ（돌려대기＝算段）は闘牋遊びの特徴を概観できるもっとも代表的で一般的な遊びです。
江原道は、カボチャプキ（갑오잡기）、トルレテギ（돌레태기）、咸鏡道と慶尚道はチックタン（짓구땅）や チックタンイ（짓구땅이）、平安道は、タンイ（땅이）と呼びました。
現在は、カードも闘牋から花闘（ファトゥ・화투＝花札）に換わり、ルールも若干変化しましたが、チッコテン（짓고 땡）またはトリチッコ　テン（도리짓고 땡・桁を作って対子）と呼ばれる。
トルリョテギ（돌려대기）の遊び方は、親（モルズ・물주）が札（モク・목）を混ぜて始まります。
混ぜた札を場（パダク・바닥）に置き、子ども（アギペ・아기패)が再び札を混ぜて親に渡す。
親は、子ども 4名に順番に5枚ずつ配る。子どもは、 5枚の中で 3枚を使って 10, 20, 30を作って行き、残りの 2枚で役点（クッパル・끗발）を作り、争います。
この場合に 3枚を足しても二けた（トゥチャリスッチャ・두 자리 숫자）の点数の‘0’を作れない場合を‘凰（ファン・황）’と呼びました。骨牌（コルペ・ 골패＝麻雀の牌を使った遊び）の時のように凰を捕まえれば、そのゲームから自動的に脱落します。
残り 2 枚の点数が同じものが現われたら‘タン・땅’または‘テン・땡’と呼びもっとも高い点数（クッパル・끗발）としました。‘タン・땅’は、固有語であり、‘テンテンクリ・땡땡구리’の略語であり、二つの札が同じという意味です。
注：筆者は、‘テン・땡’は、麻雀の役の「七対子（チートイツ)」を構成する対子（トイツ）と理解している。
‘タン・땅’は 10 の点数が 2 枚であるチャンテン（장땅10－10)がもっとも高く、次いで9タン(땅) 9-9, 8タン（땅）8-8, 7-7,6-6,5-5,4-4,3-3,2-2, の順序で1タン（땅）1-1まで下がって行きます。‘チャンテンです・장땅이다’というゲーム用語は、日常化されて最高最上を表す表現になりました。
　タン（땅）に該当しない場合には2枚の点数を足した数字が点数（クッパル・끗발）になります。
　2枚の点数を合わした数字が‘９’ならば‘カボ（갑오）＝日本のカブと同じ’と呼び、一番高い点数です。そして、 8·7·6·5·4·3·2·1の順序で点数が低くなります。
ここで‘1’を掴めば‘タラジ（따라지）’、‘0’を掴めば‘マントン（망통）’または‘ムデ（무대）’と呼ばれました。
‘タラジ（따라지）’は、体躯が小さい人を指す言葉です。
‘タラジ（따라지）散調（サンジョ・산조)’と呼ばれることもありました。＝1973年「東亜日報」連載小説。洪盛原（ﾎﾝ・ｿﾝｳｫﾝ）作、朴古石（ﾊﾟｸ・ｺｿｸ）画。注：散調：音楽 カヤグム（가야금)· コムンゴ（거문고)· テーグム（대금)’などの独奏曲形式の民俗音楽の一つ
この言葉は、その後、 6·25戦争が起こると南側に避難して来た人を指す‘サムパルタラジ（3·8 따라지）’の身世（シンセ・신세＝身の上）を作ったりしました。
★役の点数の固有語の呼び方（別サイトから引用）
０点から上がっていく。
０点＝ムデ（무대)、マントン（망통)、クァク（꽉）
１点＝タラジ（따라지）
２，３，４点は、不明。
５点＝チンジュ（진주)、カクィ（가귀）
６点＝ソシ（서시）
７点＝コビ（고비）
８点＝トゥルモリ（들머리）
９点＝カボ（갑오）
注：日本の花札もしくは株札を用いて行われるゲーム「おいちょかぶ」との関連が考えられる。
オイチョはポルトガル語の8（pt:oito)、9のカブは末端を意味する（cabo）に由来する。
　再び、タラジ（따라지）を得意のNAVERの国語辞典で引いてみました。
따라지：名詞
１．賭博場で３点と８点を合わせてできた点数＝１点の事
２．以北から越南した人を俗っぽく言う言葉。
３．しがないか、つまらない立場に置かれた人や物を俗っぽく言う言葉。

タラジ（따라지）の意味の変化

以上、見てきたようにタラジ（따라지）の意味は、最初は、小柄でみすぼらしい人、を指す言葉であった。→朝鮮時代になり鬪牋（トゥジョン・투전）が流行した時に１点を呼ぶときに最悪の点なので、しがない存在、つまらない立場などみすぼらしいイメージとしてタラジ（따라지）と名付けた。本当は、まだ下に０点があるのだが…。

次に、以北から越南した人を俗っぽく言う言葉で流行語になった３８(サムパル)タラジ(따라지)について述べます。

３８タラジ（따라지）

李鍾珏著「はやり言葉でわかる韓国いまどき世相史」（株式会社亜紀書房 2010 年：日本語）に

３８タラジ（３８따라지）という項目で説明している。（P19-P21）

◎ことばの意味－共産主義を嫌い、北朝鮮から身ひとつで 38 線を越えて韓国に避難してきた人々たちが、苦しい生活を強いられた自分たちの立場を自嘲する言葉。

◎ことばの背景－金日成共産政権の成立（1948 年９月９日）と前後して、共産主義治下から逃れようと、数多くの住民たちが南に避難してきた。また、朝鮮戦争中に北から南に避難してきた人々は、その大多数が休戦の後も北に帰らず、そのまま韓国に定着した。

38 線を南に越えてきた人という意味で「越南民」あるいは北の出身という意味で「以北人」と呼ぶ。

地主、知識層、キリスト教信徒が多かった。

北朝鮮の故郷に家族と親戚をはじめ、家や土地、財産を置いたまま、南に徒手空拳で来た越南民は、自分たちを「38 タラジ」と呼んだ。

「タラジ」とはもともと花札用語で、数字の「１」を意味する。自札の２枚を合計し、１桁の数字の大きさを競う花札では、１がもっとも弱い。

注：３８線を３と８に分けて３＋８＝１（タラジ）ともじっている。

タラジとは最低、最悪などの意味だ。「タラジ学校」「タラジ人生」などの言葉もある。故郷を離れ、財産は体だけ、という厳しい状況で生きる彼らは、自分たちの苦しい立場をタラジと自嘲したのだ。

越南民の正確な人数は分かっておらず、500 万以上、300 万以上、200 万、100 万人、70 万人と諸説ある。

彼らは、もともと南で生活していた人と比べ、何倍もの強靭な生活力を発揮し、子供の教育を最優先した。他のものは破壊され、奪われても、教育と学歴はなくならない。

韓国人は、朝鮮戦争を通じて、教育と学歴がどんな財産よりも安全だと痛感した。特に越南民は、自分たちの経験からそのことを実感し、韓国の苦しい暮らしの中でも、子供の教育を最優先した。

越南民が韓国に定着し、２世、３世が生まれた 60,70 年代には越南民とその家族を合わせて「１千万離散家族」と呼ばれるようになった。

朴正熙政権など歴代政権は、閣僚の任命や与党国会議員候補の党公認などで、１千万離散家族の票を意識して、以北（北朝鮮）出身を一定の比率で割り当てた。

戦後 50 年以上が過ぎた今となっては、越南民３世、４世の「38 タラジ」意識は希薄になっている。

＊次号 307 号「(下)」は、日帝強占期に若くして夭逝した小説家金裕貞（キム・ユジョン）の小説「タラジ/惨めな生活」を中心にまとめます。（続く）